

鶴岡工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)		授業科目	国語 I
科目基礎情報						
科目番号	0009		科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 3		
開設学科	創造工学科 (電気・電子コース)		対象学年	1		
開設期	通年		週時間数	3		
教科書/教材	大修館書店『国語総合改訂版現代文編』、大修館書店『国語総合改訂版古典編』、準拠学習課題ノート2冊、三省堂『新明解国語辞典 (第7版)』					
担当教員	加田 謙一郎					
到達目標						
1. 論理的な文章を読み、論旨を理解・要約し、意見を表すことができる。また、文学作品を読み、作者の意図を的確に汲み取ることができる。 2. 古文・漢文を読み、自国の異なる時代の文化や異なる国の文化の一端を理解し、自己の考えを深めたり広げたりできる。 3. 科学・技術等に関する課題に対して、情報を収集し、それを的確に分析・理解し、口頭発表できる。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	論理的な文章を読み、論旨を理解・要約し、意見を表すことができる。また、文学作品を読み、作者の意図を的確に汲み取ることができる。それを通して読書習慣を身につけることができる。		論理的な文章を読み、論旨を理解・要約し、意見を表すことができる。また、文学作品を読み、作者の意図を的確に汲み取ることができる。		論理的な文章を読み、論旨を理解・要約ができない。また、文学作品を読み、作者の意図を汲み取ることの必要性を理解できない。	
評価項目2	古文・漢文を読み、自国の異なる時代の文化や異なる国の文化の一端を理解し、自己の考えを深めたり広げたりできる。それを通じて、身近な問題に関して、他者のありように理解を示す姿勢を持つことができる。		古文・漢文を読み、自国の異なる時代の文化や異なる国の文化の一端を理解し、自己の考えを深めたり広げたりできる。		古文・漢文を読み、自国の異なる時代の文化や異なる国の文化の一端を理解できない。	
評価項目3	科学・技術等に関する課題に対して、情報を収集し、それを的確に分析・理解し、口頭発表できる。多角に敵に課題を把握し、物事のプラス面とマイナス面を公正に理解することができる。		科学・技術等に関する課題に対して、情報を収集し、それを的確に分析・理解し、口頭発表できる。		科学・技術等に関する課題に対して、情報を収集し、それを的確に分析・理解できない。	
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	本授業の主目標は、他者とのコミュニケーションの基本となる日本語能力の、総合的な向上を図ることである。具体的な副目標は次の3点である。1 「情報を正確に受け取る力」 (〈聞く能力〉および〈読む能力〉) 育成。2 「情報を正確に伝達する力」 (〈書く能力〉および〈話す能力〉) 育成。3 コミュニケーションの基本となる協調性の涵養。課題提出・小テストは目標達成のため、適宜行う予定である。国語辞典は各自用意すること。					
授業の進め方・方法	基本的に講義形式で進める。またグループワークを中心とした演習形式の授業もある。					
注意点	授業はあらかじめ、予習をしてから臨むこと。ノートは必ずとること。なお、国語辞典 (紙媒体・中学校で使したものも可)は各自用意すること。					
事前・事後学習、オフィスアワー						
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	ガイダンス		国語Ⅱを受講する目的、到達目標を説明できる。	
		2週	評論 (一) 「富士山のカタチ」ほか		文章を客観的に理解し、人間・社会・自然などについて考えを深め、広げることができる。	
		3週	評論 (二) 「水の東西」ほか		同上	
		4週	評論 (三) 「自由な主体に必要な『尋ねあい』」ほか		同上	
		5週	小説 (一) 「羅生門」		小説を読んで、コミュニケーションに必要な「聴く・読む」ことの基本姿勢を学び、実践できる。	
		6週	小説 (一) 「羅生門」		同上	
		7週	小説 (二) 「良識派」「セメント樽の中の手紙」		同上	
		8週	評論 (四) 「人は独創的でありたいか」		論理の構成や展開の把握にもとづいて論旨を客観的に理解できる。また、それに対する独自の意見を持つことができる。	
	2ndQ	9週	古典入門 (一) 「児のそら寝」 「絵仏師良秀」		古典読解を通して、古典文学に親しみ、古人の生活を偲ぶことができる。	
		10週	古典入門 (二) 「阿蘇の史、盗人にあひてのがるること」「猿、恩を知ること		同上	
		11週	二 随筆 「徒然草」		同上	
		12週	理学者Xからの手紙 (一)		グループワークを行い、議論の前提条件を明示できる。	
		13週	理学者Xからの手紙 (一)		同上	
		14週	理学者Xからの手紙 (一)		同上	
		15週	評論 (五) 「他者を理解するということ」		コミュニケーションの重要性和学ぶことの意義への理解を深め、それに関する意見をまとめることができる。	
		16週				
後期	3rdQ	1週	評論 (六) 「『知ること』と『わかること』」ほか		評論の内容を、各段落ごとに論理展開を追いながら、読むことができる。	

		2週	評論（七）「自然と人間の関係をとおして考える」ほか	同上
		3週	評論（八）「言語についての新しい認識」ほか	同上
		4週	小説（三）「夢十夜」	感想文の書き方を学ぶ。「構成メモ」を作成し、実際に感想文を書く準備ができる。
		5週	小説（三）「夢十夜」ほか	小説の情景描写・心理描写をまとめ、「構成メモ」を活用して感想文を書くことができる。
		6週	理学者Xからの手紙（二）	科学に必要な四つの要素について、個々の生活上の経験を踏まえながら説明できる。
		7週	理学者Xからの手紙（二）	同上
		8週	物語（一）「竹取物語」	古典読解を通して、古典文学に親しみ、古人の生活を偲ぶことができる。
	4thQ	9週	一 漢文入門	漢文の特色を知り、訓読の決まりを理解する。
		10週	二 故事成語	故事を読み、漢文の世界に親しむことができる。
		11週	理学者Xからの手紙（三）	「理学者Xからの手紙」への返事を書き、第三者へその回答をプレゼンテーションできる。
		12週	理学者Xからの手紙（三）	同上
		13週	評論（九）「グローバル化とグローバリズム」	論理の構成や展開の把握にもとづいて論旨を客観的に理解し、要約し、意見を表すことができる。また、論理的な文章の代表的構成法を理解できる。
		14週	評論（十）「意味と身体」	同上
		15週	評論（十一）「メディアとしての顔」	同上
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	国語	国語	論理的な文章を読み、論理の構成や展開の把握にもとづいて論旨を客観的に理解し、要約し、意見を表すことができる。また、論理的な文章の代表的構成法を理解できる。	3	前3,後13
				代表的な文学作品を読み、人物・情景・心情の描写ならびに描写意図などを理解して味わうとともに、その効果について説明できる。	3	前11
				文章を客観的に理解し、人間・社会・自然などについて考えを深め、広げることができる。	2	前2
				文学作品について、鑑賞の方法を理解できる。また、代表的な文学作品について、日本文学史における位置を理解し、作品の意義について意見を述べることができる。	2	
				鑑賞にもとづく批評的な文章の執筆や文学的な文章（詩歌、小説など）の創作をとおして、感受性を培うことができる。	3	
				読書習慣の形成をとおして感受性を培い、新たな言葉やものの見方を習得して自らの表現の向上に生かすことができる。	3	
				現代日本語の運用、語句の意味、常用漢字、熟語の構成、ことわざ、慣用句、同音同訓異義語、単位呼称、対義語と類義語等の基礎的知識についての理解を深め、その特徴を把握できる。また、それらの知識を適切に活用して表現できる。	1	
				代表的な古文・漢文を読み、言葉や表現方法の特徴をふまえて人物・情景などを理解し、人間・社会・自然などについて考えを深めたり広げたりすることができる。	3	前11,後8
				古文・漢文について、音読・朗読もしくは暗唱することにより、特有のリズムや韻などを味わうことができる。	3	後8
				代表的な古文・漢文について、日本文学史および中国文学史における位置を理解し、作品の意義について意見を述べることができる。また、それらに親しもうとすることができる。	2	
				教材として取り上げた作品について、用いられている言葉の現代の言葉とのつながりや、時代背景などに関する古文・漢文の基礎的知識を習得できる。	1	
				情報の収集や発想・選択・構成の方法を理解し、論理構成や口頭によるものを含む表現方法を工夫して、科学技術等に関する自らの意見や考えを効果的に伝えることができる。また、信頼性を重視して情報を分析し、図表等を適切に活用・加工してコミュニケーションに生かすことができる。	3	
				他者の口頭によるものを含む表現について、客観的に評価するとともに建設的に助言し、多角的な理解力、柔軟な発想・思考力の涵養に努めるとともに、自己の表現の向上に資することができる。	3	
				相手の意見を理解して要約し、他者の視点を尊重しつつ、建設的かつ論理的に自らの考えを構築し、合意形成にむけて口頭によるコミュニケーションをとることができる。また、自らのコミュニケーションスキルを改善する方法を習得できる。	3	
				社会で使用される言葉を始め広く日本語を習得し、その意味や用法を理解できる。また、それらを適切に用い、社会的コミュニケーションとして実践できる。	3	

評価割合

	試験	課題提出	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	60	30	0	10	0	0	100
基礎的能力	60	0	0	10	0	0	70
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0

分野横断的能力	0	30	0	0	0	0	30
---------	---	----	---	---	---	---	----